

(仮称) さっぽろ読書・図書館プラン2027 成果指標（案）について

(1) 現行プランの成果指標

●図書館の利用に満足している人の割合

当初値：令和2年度(2020年度)	令和7年度(2025年度)	目標値：令和8年度(2026年度)
92.0%	93.5%	93.0%

●読書が好きな子どもの割合

	当初値：令和2年度 (2020年度)	令和7年度 (2025年度)	目標値：令和8年度 (2026年度)
小学校5年生	78.5%	73.5%	79.0%
中学校2年生	69.8%	69.7%	78.0%
高校2年生	70.1%	69.4%	75.0%

<参考>『全国学力・学習状況調査（令和7年度）』読書が好きな子どもの割合

小学校6年生：69.8% 中学校3年生：61.7%

(2) 次期プランの成果指標

本計画を着実に推進していくためには、計画に掲げた施策の効果を、できるだけ目に見える形で評価・検証していくことが必要と考えられます。

一方、読書活動の推進や図書館サービスの適切さについては、個別・詳細な数値だけでその成果を測ることは非常に難しい側面があります。

多岐にわたる施策について評価・検証するためには、その活動状況を客観的に測定・観察できる指標を設定するとともに、市民の意識や意欲の変容、満足度といった本質的な効果を捉える指標を設定する必要があります。

このため、計画を推進するうえでは、これらを総合的に「成果指標」として位置づけ、客観的な統計データに基づき市民の図書館の利用状況を測る「普及・利用（量）」の指標と、アンケート調査等により市民の意識変化や満足度を測る「意識・満足度（質）」の指標を組み合わせた評価体系とします。

これらの指標は、統計やアンケート調査などにより今後の推移を継続的に把握し、計画の進行管理に活用していきます。

●図書館の利用に満足している人の割合

現状値：令和7年度(2025年度)	目標値：令和13年度(2031年度)
93.5%	95.0%

<参考> 図書館の利用に満足している人の割合(18歳以下)：97.5%(令和7年度(2025年度))

さっぽろ読書・図書館プラン2022に基づく様々な取組の結果、「図書館の利用に満足している人の割合」はさっぽろ読書・図書館プラン2022の計画期間中に92%から93.5%への上昇を達成しました。

今後は社会の成熟に伴い、市民生活や様々な活動に役立つ図書館へのニーズが一層多様化することが見込まれます。また、市民への情報発信、職員のスキル向上、施設運営体制の面などで更なる改善が求められていることから、この割合はさらに増加していくことが望ましいと言えます。

したがって、次期プランにおいても引き続き向上を目指し、目標値を95%とします。

●読書が好きな子どもの割合

	現状値：令和7年度(2025年度)	目標値：令和13年度(2031年度)
小学校5年生	73.5%	73.5%
中学校2年生	69.7%	69.7%
高校2年生	69.4%	69.4%

<参考> 全国学力・学習状況調査（令和7年度）

小学校6年生：69.8% 中学校3年生：61.7%

スマートフォンや動画メディアの普及に伴い、現代の子どもたちは短時間で効率よく楽しさを得られるコンテンツに手軽にアクセスできるようになりました。こうした環境変化も背景にあり、全国的にも本市においても、読書が好きな子どもの割合は低下傾向にあります。

さっぽろ読書・図書館プラン2022でも指標としていたこの割合は、計画期間内に設定した目標値には届かなかったものの、国の『全国学力・学習状況調査』における全国平均（小学校6年生：69.8%、中学校3年生：61.7%）を上回っており、プランに基づく様々な取組に一定の成果があったものと考えております。

次期プランでは、「読書が好きな子どもの割合」の低下に歯止めをかけ、今後
も現状水準で維持することを目指し、目標値を設定します。

●図書館の年間延べ来館者数

現状値：令和7年度(2025年度)	目標値：令和13年度(2031年度)
2,439,328人	3,000,000人

●図書館の利用登録がある市民の割合

現状値：令和7年度(2025年度)	目標値：令和13年度(2031年度)
14.7%	25.0%

<参考> 図書館の利用登録がある市民の割合（18歳以下）：22.8%（令和7年度(2025年度)）

本プランの上位計画である「第2期札幌市教育振興基本計画」では、基本施策の一つとして「豊かな生活につながる学びの環境の充実」を掲げています。同計画において、図書館は、生涯を通じた主体的な学びを支援し、健康や地域の課題解決など多様な学びが活発に行われる環境を充実させるための施設として位置付けられています。

この「学びの環境」としての役割が十分に果たされているかを測るため、「第2期札幌市教育振興基本計画」では、貸出にとどまらない多様な活動の「場」として活用された総量を示す「図書館の年間延べ来館者数」と、施設が市民にどれだけ広く浸透しているかを示す「図書館の利用登録がある市民の割合」の2つを成果指標として設定しています。本プランにおいても、本市の読書・図書館施策を上位計画と一体的に推進していくため、これら2つを成果指標として位置付け、目標の達成を図っていきます。

●電子図書館の閲覧数

現状値：令和7年度(2025年度)	目標値：令和13年度(2031年度)
177,928回	220,000回

次期プランにおける重要な課題として、若年層の図書館利用率の低迷や、時間が無いことを理由とした高校生世代の不読率の上昇などが挙げられます。こうした時間的な制約を抱える世代や、障がい者や高齢者といった物理的な来館が難しい市民に対して、時間や場所を問わずスマートフォン等で利用できる「電子図書館」による、新たな読書機会の提供を目指します。

このため、物理的な来館者数だけでなく、電子図書館の利用実績も併せて計測することで、これまで図書館を利用していなかった新たな層への普及に電子図書館がどれだけ寄与したかを評価します。そのための新たな指標として、実際にサービスを活用した市民の広がりを直接的に示す「電子図書館の閲覧回数」を設定します。

(3) 評価・検証

各施策の実施状況やアンケート調査、図書館利用に関する統計データなどについて、附属機関である図書館協議会に報告して点検や評価を受けるなど、市民の視点や有識者意見を参考に、以後の施策の検討や見直し、事業内容の改善などに生かしていきます。

また、策定後の社会情勢、国や他都市の動向など図書館を取り巻く環境の変化を踏まえ、見直しが必要と判断される場合は、適宜計画の見直しを行います。